

科目区分	基礎分野			科目番号	0103	曜日時間		
授業科目	倫 理 学							
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次後期	授業形態	講義	
担当教員	中別府 温和							
授業目的	人間を理解し、集団や組織における人としての判断基準を学び、看護を実践する時の内的規範を理解する。							
授業目標	1. 倫理学とは何かについて理解できる。 2. 人間を理解し、内的規範の意味を知る。 3. 現代に特有の倫理的なテーマ（出生前診断、自己決定支援など）についての理解を深める。 4. 実践の場で発揮できる倫理的な判断力を深める。 5. 個々のテーマについて理解を進める中で、倫理を活用して論理的に考える。							
授業の内容と方法	回	授業内容			授業方法	時間	担当	備考
	15	1. 「哲学・倫理学」に求められている「知」とは何か －「倫理学」を学ぶときの基本的な態度と方法－ 2. 「わたしが人間として生きている」ということ －このことをどこからどのように問うことができるか－ 3. 「吟味のない生活というものとは人間の生きる生活ではない」 －この発言の問うた意味はどこからどのように明らかにすることができるか－ 4. 「知らないのになにか知っているように思っている」という最大の無知 －「知を愛し求めつづけて生きる」ということの意味は何か－ 5. 「自分にとってよいと思われること」をしている自分と「自分が本当なのぞんでいること」をしている自分 －医療倫理とディレンマの問題－ 6. 「よいというそのこと」と「よいとは何か」という問い －正義の再検討を含めて－ 7. 「…とは何か」という問い―徳の再検討― －問うことができる・問わなければならない・問い続けて生きる－ 8. 「目的」と「手段」という考え方ははらむ問題―功利主義の再検討― －「よいとされることを為せ」と「よい人になれ」との相違－ 9. 「内的で絶対的な自由」と倫理的であることについて―倫理と法― －「忠実な家来の偽証」をめぐる譬えの再検討― 10. 「わたしの生を律しているもの」をどこからどのように問うことができるのか －「他の人た生命、自由、財産を奪ってはならない」－ 11. 「わたしの生を律しているもの」と経験 －「自然法」のもつ「倫理学」的意味とは何かの検討も含めて－ 12. 「何のために」という問いへの最終的な答えとしての幸福 －「わたしは幸福である」という実感は経験を根拠としている－ 13. 「義務であると同時に目的でもあること」とは何か －「目的を達成する手段」と「目的そのもの」という考え方－ 14. 「内なる自由」と「意志」 －「それ自体としてよいかわるいか」と問われること－ 15. 「倫理的である」ということはどのようなことか －「わたしたちはその人を尊敬しているのではなく、その人が打ち立てた倫理的な態度と方法を尊敬している」－			講義	30	中別府 温和	
終了後課題	各講義の最終場面で15分程度グループディスカッションを行います。各グループの代表がそのディスカッションの概要を発表しますが、その内容をめぐる意見交換を講義内容の理解と定着に役立てます。							
評価計画方法	授業中の態度（出席および担当教員との意見交換などを含む）（40%）、グループディスカッションのグループワーク（30%）、試験（30%）で総合的に評価します。							
テキスト参考図書	テキストは使用しません。 テキストに代わる講義資料は毎回配付します。							
実務歴	無							
講義への反映								
備考	上記「授業目標」3に書かれている現代に特有の倫理的テーマ、例えば、身体拘束、児童虐待、出生前診断、障がい者差別、自己決定支援などをめぐるディスカッションおよび関連資料の提示は、随時、授業中に行います。							